女と男、もっとわかりあうために

かれんと

No.13

Current：カレント
―時代の流れあるいは新しい潮流―

本文とは関係ありません

いじめ、不登校、自殺、援助交際、校内暴力、そして、ナイフ殺傷事件など……。

子どもと教育をめぐる状況は益々深刻化し、「子どもの心が見えない、子どもとどう関わっていったら良いか分からない」といった子育てについての不安を訴える親も少なくありません。

一方、「子育ては母親の仕事」といった性別役割分業（＊ひとくちメモ参照）の考え方が、まだまだ男女の意識の中に残されています。

親も子もそれぞれの個性を尊重し合い、男女が共に子育てや家事に参加でき、皆がいきいき暮らせる社会がのぞまれます。

今回は「子育て」について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

どう思いますか？

＝子育て編＝

平成10年版厚生白書『少子社会を考える――子供を生み育てることに「夢」をもてる社会を――』によると、夢を持てない原因を、まだ残る性別役割分業社会、母親のみに重い子育て責任、不十分な子育て支援策などとしています。市内保育園・幼稚園などで、子育てについて皆さんの声を聞きました。

「男は仕事、女は家庭」で、なぜいけないの？

夫は家では何もやってくれない。でも、やってほしいことはある。

男が外で働き、女が家を守るのは当然だ。

家に母親がいる方が子どもの心が安定しているように思う。

「男も家事を」と言われても、せめて家ではゆっくりしたい。

仕事が忙しく、我が家は父親不在状態。もっと子どもと関わりたいとは思う。

職業を持つことは、女性も男性も当然のことだと思う。

仕事・家事・子育て、プラス自分自身、25％ずつやりこなせれば、なんとかやっていける。

女性が外で働くことは、経済的な面だけではなく、**自分自身の成長**になるし、親も子もめりはりのある生活ができる。

仕事と子育て両立させたいけれど・・・

忙しくて子どもと接する時間は少ないけれど、連絡帳を活用して**コミュニケーションを大切に**している。

共働きなので、**子どもも家事を分担**しています。

仕事が休めない時、**子どもが病気になると、どうしたらよいのか**悲しくなります。

家族がそれぞれ**自分のことは自分で**するようにする。

男性と同じように働いていますが、**国の子育て支援がもっと充実していれば安心**して働けるのに、と思います。

産休明けから保育園に預けていますが、生活のリズムができて、子どもものびのびと育っています。

記事と写真は関係ありません。

いま、子どもたちは

早期教育、詰め込み主義、競争的な教育…。小さい時から、家庭・塾・学校で、より多くの知識を覚えることだけが中心の教育を受け、自発性やじっくりと考える力が育たず、心にゆとりが持てないでいるように思います。その上、ＴＶゲームの普及などで、子供同士群れをなして遊ぶことがなくなり、人との関わり方や、感情のコントロールの苦手な子が多くなっています。

何か失敗するとすぐに諦めてしまう、我慢ができない、というのも今の子どもの特徴です。

また、メディアを通して、暴力やポルノが簡単に家庭内に入り込んでいることも大きな問題の一つです。

子育てで大切にしていることは何ですか？

何事も自分で判断できるよう育てたいと思います。

家族の一員として、家事を分担させ、責任を持たせるようにしています。

わがままでは困りますが、のびのびと育ってほしいと思います。

なによりもまず**命の大切さ**を教えるようにしています。

家族のだんらん・ふれあい・会話を大切にしています。

自然とのふれあいを通し、**子どもの心を豊かに**したいと思います。

夫婦が仲良く、助け合いながら生活することが、子どもにとってもよいことだと思います。

あなたが大切にしていることは？
ご意見をお待ちしております。

子育てに夢の持てる社会を

「安心して子どもを産み、育てられるまちづくり」を目指し、鹿沼市では「鹿沼市エンゼルプラン」が策定されています。

保育所の機能強化、専業主婦の子育て支援策、障害児の子育て支援、学童保育の拡充、労働時間の改善、相談指導、遊び場の整備、学校教育の充実等がプランとして具体的に掲げられています。

しかし、共働き家庭における病児保育や夜間・休日保育の要望、専業主婦の育児不安、遊び場の不足等、まだまだ対応しきれないニーズがたくさんあります。

子どもたちが健全に成長・発達するためには、安定した生活環境が必要です。その基本は家庭です。

女性の社会進出が進み、核家族化、晩婚化、少子化と、家族の在り方も変化しています。このような社会の変化の中で、「子育て」も家族だけではなく、社会全体で取り組む必要があります。

男女共同参画社会の実現が社会的要請として高まっている中、いまだに残る「男は仕事、女は家事・育児」といった性別役割分業を見直し、家族が互いに信頼し、協力し合いながら生きていくことが、豊かな子育てにつながるのではないでしょうか。

すてきな女性（ひと）

夜間保育を始めた

柴崎　君江さん

（茂　呂）

「仕事は続けたい、しかし子どもだけの留守番は？」こんな悩みを抱える家庭は年々増えてきています。

「実は私もそのひとりでした。子育て中は、夜の会議や不規則勤務で、預ける所がなく困ったことがありました。私自身が同じ悩みをもつ人たちの助けができたらと考え、夜間保育を始めました。」という柴崎さん。始めるにあたっては、自費でガレージを改造し、スタッフには栄養士・看護婦・保母などの資格を持つ友人たちが集まってきてくれました。

また、市内の保育園を回り、保育園終了後に保育の必要な人がいたら紹介してほしい、と自らの足でＰＲにも歩きました。

きちんと整頓された部屋、開け放された窓からは涼しい風が吹き抜ける。本棚の絵本や玩具が、ここは子どものための場所なのだと感じさせます。

「日曜祭日でも頼まれれば預かることもあります。親の事情、子の事情を聴けば、損得抜きでみてあげようと思ってしまいます。」この細い身体のどこにそんなバイタリティーが潜んでいるのかと思うほど、熱っぽく夜間保育にくる子どもたちのことを語ってくれました。

「自宅の庭でバーベキューをしたり、家庭菜園の野菜を、子どもたちと一緒に摘んで料理することもあるんですよ。普段は食べない野菜も子どもたちはむしゃむしゃ食べます。夫も仕事から早く帰った時は、子どもたちと遊ぶのを楽しみにしています。」

今や就労人口の40％を女性が占める時代。就労形態も様々であり、管理職につく女性もいます。

認可保育施設が応えていない需要に、柔軟に応えてくれ、親も子も家庭的なほっとした暖かさを感じることができる、そんな場所、そんな人でした。

編集後記

学校や幼稚園で、運動会の歓声が聞こえる季節となってまいりました。

今回から、前田敏通さんと関口直美さんの二人が編集員に加わりました。男性が加わったことで、新しい視点でとらえることができ、編集内容に深みを増したことと思います。

ご感想・ご意見がありましたら、下記までお寄せください。

●プラスワン・セミナー●
開講のお知らせ

「老後は家族に頼る…」で、大丈夫でしょうか？

高齢社会のこと・介護のこと、プラスワン・セミナーに参加して、女性の視点から考えてみませんか。

日　時　10月29日㈭午後1:30～3:30
テーマ　「どうなるの？私たちの老後」
講　師　女性問題研究家　西山恵美子先生
会　場　鹿沼市民文化センター　中会議室
定　員　30名
受講料　無料
申　込　１週間前までに電話でお申込み下さい。
女性青少年課・女性係　☎63－2232

第14回地区別懇談会開催

女性団体連絡協議会が中心となり、自治会の協力を得て、６～８月に12地区で懇談会が開かれました。

「地域における女性の参画」を懇談会のテーマに、女性問題啓発ビデオ視聴後、グループに分かれ、ビデオの内容や女性の参画などについて、話し合いました。

女性300人、男性192人の参加者があり、男女が共に参画する必要性を再認識しました。

「私もひとこと」募集

「女だから」「男だから」といった固定的な考えから抜け出し、自分らしい生き方ができる社会を創るために、あなたのひとことを募集します。

家庭や職場、社会における望ましい女性と男性のあり方や体験をお寄せください。

規　　定・字数　200字以内（ハガキでの応募も可）
・原稿には、題・住所・氏名・電話番号を記入
応募資格　市内在住者（年齢不問）
締 切 日　10月30日㈮必着
応 募 先　教育委員会女性青少年課女性係　☎63－2232
※入選者は、女性情報紙「かれんと」14号で発表します。

ひとくちメモ

性別役割分業　sex roles

「男は仕事、女は家事・育児」というように、性別によって、家庭・職場などあらゆる場面で役割を分担することを言います。

日本においては、こうした男女に対する固定的な役割分業意識が根強く残っています。この役割分業意識が出生率低下の一因であると、平成10年版厚生白書でも指摘されています。

〈編集〉ボランティア編集員　〈発行〉鹿沼市教育委員会　〒322－8601 鹿沼市今宮町1688－１　☎0289(63)2232